

令和2年 4月 1日
校長 甚野 雄治

令和2年度 杉並区立松ノ木小学校経営方針

教育目標

○やさしい子供	生命を尊重し、一人一人のかけがえのないいのちを大切にし、他を思いやるやさしい心を備えた子
○考える子供	自分の力で粘り強く考え、正しく判断し、創意・工夫をし、自 主的・自発的に行動する子
○たくましい子供	心身ともに健康で活力に満ちたたくましい子

目指す学校の姿

「自ら学ぶ児童を育てる」学校
～Society5.0に向けて～

目指す児童像

自らが学ぶ意思をもち、自らの可能性を最大限に生かして学ぶ子供

1 基本方針

＜子供の笑顔のために＞

私たちの取組はすべて「子供の笑顔」のためにあります。一人一人の子供が、納得できる学校生活が送れるよう、子供たちとしっかりと向き合っていきます。

新学習指導要領が完全実施となった本年度、子供たちの「主体性」を尊重した教育活動を強く意識します。言われて学習する、指示されて行動するのではなく、子供たちの「考えて行動する力」が育たないばかりか、自己肯定感も高まりません。求められる「深い学び」にもたどり着けません。子供たちが自分自身で、よりよい方法や多様な方法を考え、自分で動いてこそ真の学力が身に付きます。それだけではありません。自ら考え行動することで達成感を得て、自己肯定感も高めることもできます。そうして得られた子供たちの笑顔を多くの場面で見られる学校にしていきます。

自分の可能性を信じ、物事に取り組み、自分を好きになれる子供、そういう松ノ木小の子に育てていきます。

＜あたり前のことをあたり前に＞

学校は子供たちのよりよい成長のためにあります。学力や体力、豊かな心を育むことが目的です。そのために、私たち教職員が範を示す必要があります。教職員の一挙手一投足が子供たちにとってお手本になるのです。特別なことは必要ありません。「あたり前のことをあたり前に」するだけです。基本に忠実、「あたり前のことをあたり前に」取り組めるようにと考えています。

2 指導の重点

以下の2点を本年度の指導の重点とし、すべての教育活動で意識して指導していきます。

- 個別最適化された学びの実現
- 児童が主体的に関わる学習活動の実現

3 重点を達成するための視点

○子供が主体の学校づくり ~子供の笑顔はみんなの力の源~

学校運営の一番の基準は「子供たちのために」。安全・安心の学校づくりはもとより、確かな学力を保障します。

3つの向上

- 学力向上→新指導要領に準拠した全員参加の授業の継続、自ら考え抜く自立した学び
実体験に基づいた実感を伴う学びの実現
R1R2層の児童の底上げ、R4R5の発展的な学び
- 人間力向上→思いやりの心の醸成、自己肯定感の育成、新しい移動教室への取組、
- 人間関係力向上→他者と協働、自己肯定感、いじめ未発見、未解決ゼロ、
子供が考えるまつのきスタンダード

○プロの技が光る授業 ~教師の笑顔は子供の力の源~

教員としての最大の義務である授業の力を高めます。校内研究を軸に、研修や多様な人材活用を通して、自らの資質向上と共に、専門性の向上に努めます。また、個々の児童の実態に応じた指導を展開し、児童の学力向上に努めます。

3つの充実

- 個に応じた指導の充実→個別最適化された学びの実現、学びのポートフォリオ
学習の的確な価値付け、達成感の醸成
- 授業の充実→「主体的・対話的で深い学び」の実現
「関わり」と「実感」を伴った授業の実践、児童が「問い合わせ」をもつ流れ
- 校内研究の充実→指導要領完全実施、自ら考え抜く自立した学び
児童の自己肯定感の育成、読解力の育成

○当事者意識をもったチーム松ノ木 ~保護者・地域の笑顔は子供の力の源~

子供たちの健全育成のためには、家庭・地域との協働は不可欠。保護者・地域・C Sや支援本部の力を最大限に生かし、地域の人材を活用した学校運営を行います。また、地域と関わる学習を展開することで、地域に生きる児童を育成します。

3つの協働

- 保護者との協働→協働の意識による児童理解の深化、協力した家庭学習
- C Sで協働→学校経営の視点の多角化、双方向の運営、学校の棚卸の実行
- 学校支援本部との協働→授業支援を軸とした外部人材の活用